F－34 主婦の社会生活空間と生活意識に関する研究

宇都宮大教育　佐藤カツコ

目的．交通や通信機関の発達にともない人々の生活空間は今日著しく拡大してきているが，家庭の主婦の場合，日常の生活空間は，どのような広がりと特徴をもっているか，それらは主婦の生活意識とどのような関係にあるかを明らかにしようとした。

方法．①調査対象　18～80才未満までの家庭の主婦　400名．

②調査地域．都市化の進展している地域として，栃木県宇都宮市内より2地域（旧市内，新興住宅地）および　過疎化の進展している地域として，栃木県下都賀郡藤岡町．

③調査内容　(a) 生活空間調査：NHKの生活時間調査の方法に準じ，前日想起法により，一定日の時刻別生活行動を，その場所，内容，一緒に行動した人について調査。また，日常の経済・教育・文化活動，親戚づきあい，近所づきあいの範囲と程度について。(b) 生活意識調査：主婦の生活空間に対する意識，コミュニティ意識，生きがい，生活空間拡大への欲求の有無など。

④調査方法．生活空間調査，生活意識調査とも郵送法．自計式によるアンケート調査。

結果．主婦の日常の社会生活空間は，平均してかなり狭く，家庭の周辺の消費物資供給施設（商店・スーパー）を中心に展開しているにすぎない。生活空間の広さは地域特性よりも家族の生活周期段階による影響がより強く，子どもが小学校入学前の育児期では最もその範囲が狭く，子どもが高校生以上になる時期に最も拡大し，さらに老年期には再びその範囲は縮少している。勤務をもつ主婦は職場まで生活空間が拡大するが，行動内容の多様性は特に認められない．近隣ネットワークは一般に狭く薄い。